

3 地域で取り組む 防災活動のアイデア

本章の構成

本章では地域で取り組める防災活動のアイデアを掲載しています。
より多くの地域で実践いただけるよう、防災活動の進め方や工夫のポイント
などを紹介しています。



防災活動に関するアイデア

お住まいの地域の課題に対応したアイデアをお探しいただけます。

point

01 防災訓練のアイデア

- 消火訓練
- 救出救護訓練
- 避難経路を使った避難訓練
- 一時避難場所の運営シミュレーション
- 大阪市防災関連アプリの活用

point

02 参加を募るためのアイデア

- 地域のバザーや、おもちゃ・衣類の交換会などを合わせて開催
- 選挙の投票や、お祭りなどと合わせて開催

アイデアの分類タイプ



どの地域でも必要な基礎的な取り組みです。



地域の特性に応じた取り組みです。



合意形成を要したり、資金調達が必要な取り組みです。

お手本となる地域の取組

地域防災力向上のお手本となる取組を行っている地域をご紹介しています。お住まいの地域でも実践できるよう、取組の概要とポイントをわかりやすく解説しています。



実践者の生の声

地域防災力向上の取組を行っている方々の生の声を掲載しています。取組に当たって工夫した点や苦労した点など、取り組みを行う上でのヒントが得られます！



INDEX

テーマ	アイデア	取組 タイプ	実践地区	ページ
防災意識を高めよう	いのちを守る防災訓練の実施		湯里地区 阿倍野地区	P17
	防災知識の普及・啓発の実施		新東三国地区 董地区	P19
	地区防災活動の情報発信		湯里地区 新東三国地区/聖和地区	P21
自助の行動を広めよう	防災用品の備蓄・家具の固定		新東三国地区	P26
	避難ルートを平時に確認しておく		新東三国地区 董地区	P27
共助のつながりをつくろう	隣近所の関係を育む		新東三国地区	P30
	要配慮者へのサポート体制を整える		湯里地区 中川地区	P31
	他の団体や事業者との協力体制をつくる		大成地区	P33
避難できる環境を整えよう	道路の障害物をとりのぞく		—	P35
	避難路や危険な道を見る化する		六原学区（京都市） 神戸市	P36
	路地の避難性を高めよう		六原学区（京都市）	P38
燃え広がらないまちづくりを進めよう	初期消火の環境づくり		湯里地区	P41
	防災性を高めるための補助制度等の周知		大阪市（一部地区） 京都市	P42
	延焼を予防する		中川地区 駒ヶ林地区（神戸市）	P43
防災拠点をつくろう	地域の広場を活用した防災拠点づくり		海老江西地区 東桃谷地区	P48
	地域で管理する防災空地をつくる		勝山地区	P50

防災意識を高めよう

いのちを守る防災訓練の実施



キホンの防災訓練

地域住民の防災意識を高めるために、発災時を想定した防災訓練を行いましょう。防災訓練を行うことで、いざという時の行動や備えが明らかになります。防災訓練には、消火器などを使った消火訓練や、救出用資機材・AED を使った救出救護訓練、あらかじめ決められた避難経路を歩いてみる避難訓練などがあります。

ひと工夫加える

防災訓練の実施に当たっては、より多くの住民に参加してもらえるような工夫を凝らすことが大切です。大阪市では最寄りの消防署による出前講座も実施しています。このような制度を活用しながら、いのちを守るための防災訓練の参加を呼びかけましょう。

point

01

防災訓練のアイデア

- 消火訓練
- 救出救護訓練
- 避難経路を使った避難訓練
- 一時避難場所の運営シミュレーション
- 大阪市防災関連アプリの活用

point

02

参加を募るためのアイデア

- 地域のバザーや、おもちゃ・衣類の交換会などを合わせて開催
- 選挙の投票や、お祭りなどと合わせて開催

※訓練後に、参加者でディスカッションし、課題を共有することも大切です。

湯里地区での実践例

東住吉区湯里地区では、平成20（2008）年から防災訓練＜湯愛デー＞を開催しています。湯愛デーでは、グループに分かれて負傷者の搬送や応急手当について学んだり、起震車で地震の体験を行います。

湯里地区の地区防災計画では、湯愛デーの実施要領がまとめられており、持続的な運営が可能です。各訓練所の配置図、タイムスケジュール、準備物など細部まで決められているのがポイントです。



防災訓練の様子

阿倍野地区での実践例

阿倍野区阿倍野地区では、地震時に家屋の倒壊により自宅に帰れず、避難所生活が長期化することを想定し、ペットといっしょに避難所で生活できるようペットを同行した「まちなか防災訓練」を実施しています。

訓練に参加する前には、飼い主がペットをしつけし、訓練当日にペットが混乱することのないよう工夫しています。当日は、ペットはペット同士、避難スペースで待機し、飼い主は、「まちなか防災訓練」に参加し、災害に対する備えについて学びました。



ペットを連れた防災訓練の様子

防災知識の普及・啓発の実施



防災イベントを開催する

防災に関するお悩みを相談する「防災カフェ」や、子ども向けにおもちゃの交換会と合わせて防災体験プログラムを開催することで、普段防災にあまり関心がない方々にも普及・啓発が行えます。

防災ゲームで災害対応を模擬体験

災害対応をテーマにした「カードゲーム」を用いることで、災害対応を手軽にシミュレーションできます。ゲームによっては発災後の対応をよりリアリティを持って体験できたり、災害時の危険性を学ぶことができます。

point

01

防災イベントのアイデア

- 防災運動会
- ・防災借り物競争、防災クイズラリーを通じて防災知識を獲得しよう！

point

02

防災ゲームのアイデア

- 避難所運営を体験「避難所HUG」
- 神戸の震災を機に開発された、災害対応のジレンマを学ぶ「クロスロード^{※1}」

※1 「クロスロード」および「Crossroad」は、登録商標（第4916923号および4916924号）です。

防災イベントの開催方法

01

イベントのアイデアを話し合おう！

難しく考えがちな「防災」を楽しんで学んでもらえる仕掛けを考えましょう！

02

実施手順をまとめよう！

イベントの準備物、役割、タイムスケジュール、広報について明確化しましょう。

03

イベントへの参加を呼びかけよう！

回観板や広報誌などのツールを用いて、広く参加を呼びかけましょう。

若い世代や女性に聞くと意外なアイデアが見つかるかも？！

防災ゲームの実践方法

01

まずは地域でカードゲームを購入！

クロスロードは京都大学生活協同組合、避難所HUGは静岡県作業所連合会・わで購入可能

02

進行手順を決めよう！

有志でゲームを繰り返し、進行方法を考えましょう。避難所HUGは進行方法の講座が開催されています。

03

ゲームの参加を呼びかけよう！

地域内の子どもからお年寄りまで多様な世代を招き、ゲームを通じて災害対応を学びましょう。



避難所HUG

避難者の属性を考慮しながら避難所の部屋割りや生活空間の確保を模擬体験します。

出典：HUGのわHP

<https://www.hugnowa.com/>

新東三国地区での実践例

淀川区新東三国地区では、コロナ禍前には避難所運営訓練において「避難所 HUG」をリアルにして訓練に取り入れていました。「避難所 HUG」では避難者の属性が書かれたカードを見ながら避難所運営について考えますが、新東三国地区では、役員が様々な属性の避難者の役のカードを持って状況を付与することでよりリアルな避難所運営訓練を行っています。



防災クイズの様子

董地区での実践例

城東区董地区では、大阪市が開発した「OSAKA 防災タイムアタック！」を用いた防災学習を行いました。

まずは地震・津波の基礎知識、避難行動に関する知識を得るDVDを視聴し、その後パネル上のクイズやクロスワードパズルを解きながら防災の知識をチェックします。ゲームの後は防災チェックシートを用いて家庭や地域の災害の備えを確認します。



OSAKA 防災タイムアタック！

私たちが取り組んでいます！



淀川区新東三国地域活動協議会のみなさん
辻本副会長（左）、増田副会長（中央）、仲川会長（右）

小学校との合同防災訓練では各町会の大人と児童と一緒に考えるオリジナルの「防災クイズ」を開催することもあります。その際、大人と児童の回答に違いがあったことがその後の防災事業に反映されました。「避難生活をどこで過ごしたいと思うか」については、大人が「住み慣れた自宅」であるのに対して、児童は「小学校でみんなと一緒に過ごしたい」でした。理由を聞いてみると、みんながいるから学校の方が安心だというのです。そこで避難所に縁遠い大人たちにも避難所を身近に感じてもらいたい思いから選挙の投票日に『避難所公開デイ』というイベントが生まれました。

ゲームに参加してみました！



城東区董地域活動協議会のみなさん
女性部部長 川崎さん（左）、会計担当 池山さん
(中央)、生涯学習担当 吉田さん（右）

私たちの地域では、防災学習の一環としてゲームを取り入れました。クイズ形式なので楽しく参加できました。問題は意外と難しく、「一人当たりどれくらいの水（1週間分）を備えておいたらいいか」など新しい発見がありました。クイズゲームに併せて防災リュックに関する紹介や、地域で作成した防災パンフレットの紹介を行うことで学習効果も高まりました。

地区防災活動の情報発信



地区防災活動はまず住民に知ってもらうことから

様々な取組を決めて、地域にお住まいの方や働いている方が認識していなければ、いざという時に、計画通りの行動をとることができません。多様な世代や立場の人々に防災活動を「自分ごと」として意識してもらうためにも、定期的な情報発信を行うことが大切です。

地域にあった情報発信ツールを検討する

高齢者の方は紙面情報、若い世代はSNSなどの電子情報など、世代などにより親しみのある情報媒体は異なります。地域にお住まいの方の属性を丁寧に調べ、適切なツールを選択することで効果的な情報発信を行うことが可能です。

社会情勢に対応した情報発信

コロナ渦の中では、災害時に密を避けるため、通常通りの避難所開設・運営ができていないことが考えられます。コロナ渦の中での対策をシミュレーションし、地区防災計画に取り入れてみてはいかがでしょうか。

point

01

情報発信のアイデア



湯里地区での実践例

東住吉区湯里地区では、防災知識の普及・啓発を広報誌やインターネットを通じて行っているほか、座談会や講演会の開催を行っています。

実施にあたっては、防災の日などのほか、地域内の催し物とセットで行うことで、多くの人に届くよう工夫されています。

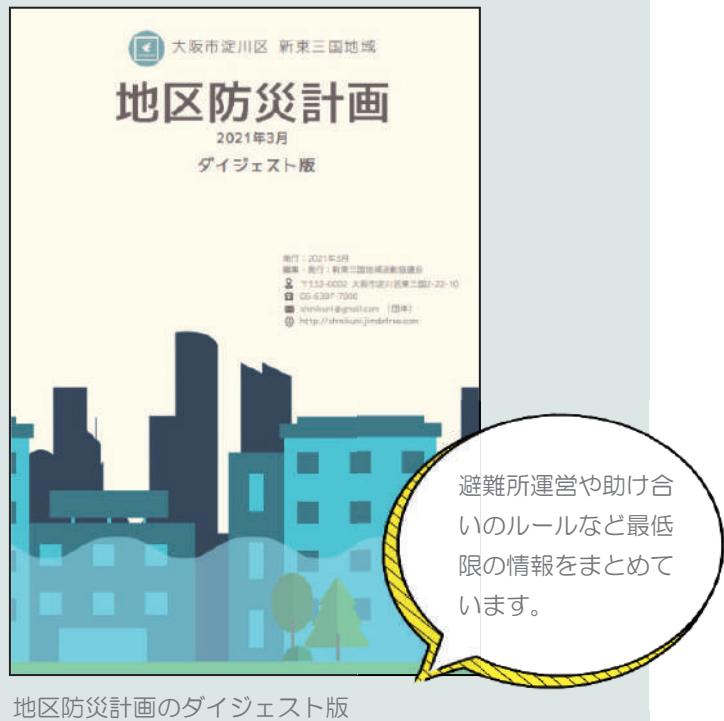


情報発信イベントの様子

新東三国地区での実践例

淀川区新東三国地区では地区防災計画のダイジェスト版を全戸配布しています。全編が見られるQRコードも同封することで、誰でも簡単にみられるよう工夫されています。

また、新東三国地区では地区防災計画に避難所運営における新型コロナウイルス対策についても公開するなど、積極的な情報発信を行っています。



地区防災計画のダイジェスト版

聖和地区での実践例

天王寺区聖和地区では、地域でのイベントやガイドブック作成など活発に活動しています。特に、防災イベントは区の広報紙にQRコードを付けて動画を公開したり、地域のガイドブックは「防災マップ」もつけて全戸配布するなど、防災も含めた地域のつながりづくりに力を入れています。



広報紙への掲載例

出典：天王寺区広報紙令和3(2021)年10月号



安心安全のまちづくり!

いざという時に助け合えるように子どもからお年寄りまで 参加できる世代間交流イベントです。ぜひご参加ください。

「防災ふえすた」の動画を

公開しています。

こちらもぜひ

ご覧ください。



防災ふえすたスタッフ 大森さん

大阪市防災アプリ

アプリを活用しよう！

「大阪市防災アプリ」をご存じでしょうか？

アプリを活用すれば、災害の時間経過に応じた情報を集めることができます。

災害に備えて	事前の情報収集、大雨対策、避難経路学習などの啓発情報 ▶防災マップ、PDF防災マップ、雨量情報、防災ガイド、リンク集
いざというときに	災害情報、河川水位、雲の動き ▶防災情報、リンク集（大阪府河川防災情報）、雨量情報、SNS情報
避難するときに	浸水想定図、避難所の開設情報、避難時の注意点 ▶防災マップ、PDF防災マップ、避難所開設情報、防災ガイド
避難してから	安否確認、避難生活情報 ▶安否確認、リンク集、防災ガイド



みなさんの地域でも、アプリを活用した災害情報の収集方法の勉強会や、安否確認機能、ブザー・スマホライトを活用したシミュレーション（避難訓練）などに取り組んでみてはいかがでしょうか？

例えば・・・

避難所までのルートを歩いてみる

- ・防災マップ機能を使えば、スマートフォンなどの端末上で、最寄りの避難所までのルートが表示されます。
- ・地域の防災訓練などで、在宅時・外出時などを想定しながら、非常時に活用できるよう、トレーニングしましょう！



安否確認の使い方を確認する

- ・SNSなどを使い、家族や知人の安否確認や、自身の安否を知らせることができます。これを機会に、地域のSNSやチャットを作つてみてもいいかもしれません。

OSAKA 防災タイムアタック！

地域で使ってみよう！！

大阪市では災害発生時に生き延びるために避難行動と災害への備えを学ぶ、防災学習プログラム「OSAKA 防災タイムアタック！－生きぬくチカラ編－」を開発し、無料貸し出しを行っています。“南海トラフ巨大地震”、その発生確率は 30 年以内に 70～80%といわれている中、地域や学校での防災学習、企業などで防災研修に、是非ご活用下さい。

『OSAKA 防災タイムアタック！－生きぬくチカラ編－』の特徴

1) グループ学習ができるオールインワンの学習キット

プログラムの実施に必要な視聴用DVD、手引書、解答記入シート、振り返りシートがセットになったオールインワンの学習キットです。防災クイズにチャレンジしグループで得点を競います。

2) わかりやすいプログラム構成

災害時の心構えや知識を蓄え、避難行動の判断力などを身につけることをめざします。

3) 実践的な内容の3コースをご用意

近い将来起きるとされている「南海トラフ巨大地震」を想定した、実践的な内容の3コース。参加者のニーズに応じて学びたい内容（コース）を選んでいただけます。

お問い合わせ

- 大阪市立総合生涯学習センター
TEL：06-6345-5004
- 大阪市立阿倍野市民学習センター
TEL：06-6634-7951
- 大阪市立難波市民学習センター
TEL：06-6643-7010





防災用品の備蓄・家具の固定

防災グッズの周知と備蓄

非常に必要となるものや持ち出すべき物を地域や家庭単位であらかじめ準備しておきましょう。特に、一人暮らしの高齢者や障がいをお持ちの要援護者のいる世帯には、非常に必要な用品を周知することで、いざという時の助けになります。

家具の固定

地震時の家具の転倒による負傷や逃げ遅れを防ぎましょう。背の高い家具は固定器具を使って固定したり、就寝場所に置かないといった安全対策をとりましょう。

大阪市ホームページ

「地震による家具等の転倒にご注意ください」



point

01

防災グッズの活用アイデア

- 防災グッズバザーによる啓発
- マンションでの共同備蓄
- 家具の固定や移動が困難な高齢者を対象に設置支援を行う「お助け」活動



防災グッズのイメージ

新東三国地区での実践例

淀川区新東三国地区では、選挙で小学校を訪れる機会に合わせて、小学校で備蓄している防災用品を周知する取組を行っています。投票に来た住民の皆さん向に、発電機や仮設トイレなどの防災備蓄品を並べることで、どのようなものが小学校に保管してあるのかPRしています。



備蓄品などを公開する様子

私たちが取り組んでいます！

新東三国地域活動協議会の皆さんのコメント

避難場所への意識や興味を深めてもらうための取組として、投票に来られた住民の皆さんに、横目で防災備蓄品を見てもらい、ここが避難所であるということを再認識してもらいました。

防災の啓発活動は、既存のイベントや行事と組み合わせることで効果が高まります。



敬者の日に配布した防災グッズのセット
(携帯トイレ・ホイッスル・マスク)

避難ルートを平時に確認しておく



作って終わりにしない！避難ルートを広く知ってもらう

地区防災マップを作る過程で地区の「危険箇所マップ」(P.8参照)を作成しますが、防災上の問題点や避難ルートを地区の関係者のみなさんに知ってもらうために積極的に使っていきましょう。

避難行動をシミュレーションするきっかけに

道路が複雑な密集市街地においては、災害時、どの道路が通れなくなるかわかりません。いざという時、冷静な行動ができるように、一時避難場所への最短ルートだけでなく、いつも利用する道路が使えなくなった場合など被災時をイメージして、安全に避難できるルートを複数想定しておくことが大切です。

家族や近隣の方々と相談しながら、発災時の避難行動をシミュレーションしておきましょう。

point

01

避難ルートを知ってもらう アイデア

●定期的なまち歩きイベントの開催

- ・防災マップを用いて、定期的に「まち歩きイベント」を実施することが効果的です。
- ・「まち歩き」で新たな発見が得られた場合は、その情報をマップに反映していくことも大切です。

マップの活用
(まち歩き)
・避難ルートの確認
・新たな発見

マップの更新
・新たな情報を追加

新東三国地区での実践例

淀川区新東三国地区では、防災まちあるきを開催し、各町会の危険箇所を写真に撮ってマップに落とし込む活動を行っています。危険箇所だけでなく、安全な場所や地域の資源なども探すことで地域をより知ってもらう取組を行っています。

私たちが取り組んでいます！

新東三国地域活動協議会のみなさんのコメント

私たちの地域は住宅地で集合住宅が多いので一般的に危ないとされる看板や塀などはあまり見られませんでした。その代わり集合住宅の前に自転車がたくさん置かれていたり、人気のない場所などがあるので、そこは危険箇所として地域で共有しています。

このような危険箇所を共有するほかにも、まちの資源を歩いて探す取組も行っています。

「各町会のいいところ」や「ここは安全」というところも共有しています。

董地区での実践例

城東区董地区では、災害時に避難場所まで安全に移動するために避難経路や危険箇所をチェックし、共有する「防災さんぽ」を開催しました。「防災さんぽ」の実施に当たっては、チェックするポイント例を記載したプリントを配布し、参加者が気づいた点をメモされていました。「防災さんぽ」が終わると、参加者には大きな地図に避難経路と危険箇所を書き込んでもらい、全員で共有することで災害に対する意識向上を図っています。

point

01

チェック項目を作ろう！

●戸建て住宅

- ・植木が落ちてこないか
- ・玄関前の自転車やコーンが道をふさいでいないか

●避難場所

- ・どこに避難するのか（教室・体育館）
- ・入口の場所や箇所数

●店舗

- ・AEDの設置場所
- ・看板などが落ちてこないか
- ・コンビニなどの緊急利用の可能性

など



<当日までの準備>

- ・さんぽコースの作成
- ・チェックリストの作成
- ・配布物の手配
- ・町会やPTAなどへの参加呼びかけ

<配布物>

- ・住宅地図
- ・ハザードマップ
- ・防災パンフレット
- ・ボールペンと付箋

私が取り組んでいます！



城東区董地域活動協議会 安川会長

今回の「防災さんぽ」の開催に当たっては、まちづくりセンターの協力や、女性部長の尽力もあって実現しました。防災さんぽでは普段暮らしているうえで気にも留めないようなところをチェックしながら歩くので、改めて地域を深く知るよい機会になりました。今回は初めての開催ということもあり、町会長や女性会などの役員に絞って参加を呼びかけましたが、今後は住民の皆さん向けにも開催したいです。